

内なる対話～「意味ある世間話」となるや、否や?!～

堂本 彰夫

⑥「総合知」への希求?!人は、何故、それを求めるのか?

I : そう言えば、かの「知の巨人」と言われた、ジャーナリストの「立花隆さん」の追悼番組（「見えた 何が 永遠が ～立花隆 最後の旅～」）が、過日（4/30、1周忌）、NHKで放映されていましたね！久しぶりに見応えのある番組でしたし、私は、珍しく、メモも取りましたよ！

D : そうですか！メモも取ったのですか！一体、何が、メモ嫌いなIさんを、そうさせたのでしょうかね？余程、心に残るものが、そこにはあったのでしょうかね？

I : いやいや、よく分かりませんが、と言うよりも、私の独断と偏見ということでしょうか、最近よく考える（と言っても、浅薄ではある？）、人間の「知のあり様」？そういうものへの関心（こだわり？）が、そうさせたのではないのでしょうかね？そして、まさに、その極致？が、立花隆さんの言動であった?!ただし、彼の著書自体は、ほとんど読んではいませんので、大きなことは言えませんが?!

D : そうですか！それは、ちょっと複雑ですね！ですが、事実なら、それはそれで仕方がないですね！そもそも、Iさんは、他の人の著作もあまり読みませんからね！尤も、私も、そうなのですが！（笑）

I : まあ、それはともかく、ネット情報では、「去年の4月、『知の巨人』と呼ばれた立花隆さんが亡くなった。『人間とは何か』を生涯問い続けた立花さん…。ディレクターが最後の思索をたどる。宇宙、分子生物学、がんなど様々な領域を渡り歩き、『人間とはなにか』という問いに向き合い続けた生涯だった。立花さんは死に際して、膨大な蔵書や資料を全て捨てて欲しいと言い残していた。知の巨人は、なぜ『無』に帰ろうとしたのか。また『人間とは何か』という問いに答えはでたのか。17年間ともに番組を制作してきたディレクターが、最後の思索の旅を追う。」とありました。

D : なるほど！何とも魅力的な話ですね！ということは、「知のあり様？」とは、結局は、「人間とは何か？」ということになる?!そういうことなのでしょうね?!実は、不遜にも、私も、そのように思い始めているのですが（本当です!）、やはり、それは、万人の行き着く先なのでしょうかね?!

I : そんなことは、私の口からは何とも言えませんが、最も興味をそそられたのは、番組では、彼の「知」を「見当識」と言っていました（本人が、そう表現していたのであろう?）、一人の人間の知には、当然限界があり、その「知」は、あくまでも、その当人の認識（「見当識」）に過ぎない！しかし、その自らの「知」（「見当識」）の先には、必ず、他の「知」（「見当識」）との「境界（接点?）」がある?!

D : 「見当識」?!初めて聞きましたが、どんなに詳しく知っても、それは、所詮、その人の「見当識」でしかない?!だが、その向こうには、必ず、他の「知」（「見当識」）との「境界（接点?）」がある?!そこで、人間は、それらの「知」（「見当識」）の「総合化」を図ってきた?!人間の知（歴史）は、それによってつくられてきた（これからもそうである?!）!そういうことであろうか?!何という壮大な「知」の理解なのか?!そして、冷静（謙虚）さなのか?!

I : 「人間の限りある命は単独であるわけではなく、いくつもの限りある命に支えられて、限りある時間を過ごしていく。それは周囲に支えられて存在するという意味において、『いのち（知）連環体』という大きな輪っかの一部でもある。そして、そういう連環体が連なって、大いなる『いのち（知）連続体』を成している」!それが、まさに「総合知」?!そういうことらしいのです?!

D : 要は、「周囲に支えられて生きる『いのち』!その『連環体』の一部としての人間。その『いのち連環体』が連続することでつながってきた『人類の歴史』!彼は、そうした、我々がふだん知覚し得ない大きな時間を見ていたのではないか?そうとも言えるでしょうが、最後に、そこに、例の「AI」が、どのように絡んでくるのか?詳しいことは、まったく分かりませんが、実は、その辺もまた、興味が沸きますよね?!

(つづく)